エピローグ

「財を遺すは下、事業を遺すは中、人を遺すは上」

私の好きな言葉の一つです。この中に出てくる、人を遺す仕事である「教育」と「研究」の領域で、大学卒業後のほとんどの時間を過ごすことができた幸運を、心からありがたいと思っています。また、その大半を豊の国大分の地で過ごすことになり、そのような星の下に生まれていたのだと感じています。

本冊子をまとめるにあたり、地方レベルの研究会での特別講演や、全国レベルの学会や国際会議等であっても一般演題の発表については、原則として省略しました。リストアップから漏れているものが、まだあるようにも思いますが、私の業績と言えるものの９割方は網羅できたのではないかと思っています。自分で本冊子をまとめる時間を持てたことは、過ぎ去りし日を思い起こすよい機会になりました。貴重な時間でした。精いっぱいの充実した人生を歩むことができたことに、そしてご協力いただいた多くの方々に、心から感謝の念でいっぱいです。

次の世代に、医療における「夢」「理想」「想い」を引き継いでいってもらうことは、何にも増して重要なことのように思います。医学部の卒業生アルバムには、毎年、教授から卒業生に贈る言葉を求められます。私が「卒業生に贈った言葉」のいくつかを、ここに挙げさせていただきます。私の素直な気持ちが表現されているように思うからです。

○青春時代の夢と理想は、人類の宝物です。大切に育ててください。

○「理性と感性のバランスのよい医師」を目指してください！

○「若くして学べば、壮して成すあり。壮して学べば、老いて衰えず。老いて学べば、死して朽ちず。」（佐藤一斎の言葉）

○医療コミュニケーションの授業でお話した「やわらかな1.5人称」という豊の国生まれのコンセプトを、ときどきは思い出しながら…。

人生において、「イメージ」はとても重要だと思っています。「ビジョン」と言ってもよいかと思います。自分の人生において、どのような「イメージ」や「ビジョン」を持って生きていくかによって、その後の生き方は大きく変わります。今では歴史上の人物になった人の中で、まだ十代の青春時代に私が特に強く影響を受けた人を三人に絞ると、アルベルト・シュヴァイツアー、内村鑑三、石井十次の名前を挙げることができます。現存する方々を挙げると際限がなくなりますので、いちいちお名前を挙げることは差し控えますが、多くのことを学ぶことのできた多くの方々に、感謝の念でいっぱいです。また、縁あって一緒に学び、仕事をすることのできた多くの素晴らしい仲間た

ちに、心からの感謝の意を表明したいと思います。

私が平成元年（1989年）11月に、当時の大分医科大学に臨床薬理学の教授として赴任して２年ほど経ったある日のことです。いつものように臨床薬理学の学生講義を行ったのですが、授業が終わって直ぐ、学生有志が数名私を訪ねてきました。私のところで「全人的医療」を学びたい、という希望が語られました。「全人的医療」「心身医学」といった領域に興味を抱く、熱心な学生グループでした。そこで、私が講義をして学生が聴くというよくあるスタイルではなくて、テーマは学生自身が決めて、自分たちで勉強してきたものを発表して、学生同士でディスカッションするという、月一回の頻度で、夕方から２時間という学生主導の勉強会であれば、と提案しました。このような条件で、1992年にこの勉強会が始まったのです。会にはしゃれた名称が必要だということで、学生たちが真剣に考えて「全人的医療を学ぶ会」を英訳して、“Aim at holistic medicine” にしたうえで、この中なら適当に文字を拾って、さらに平仮名の日本語に変換して、夕方からの会なので、ドイツ語の「アーベント」を付けて、この会を「あとほーむアーベント」と名づけました。

この「あとほーむアーベント」は、私が病院長のまま定年退職を迎えるまで、学生が年々変わっても継続して開催され、通算120回を数えるまで続きました。私は、学生の立場でのディスカッションをひたすら聴いておいて、各回の最後にコメントと質疑応答・意見交換を行うという勉強会でした。学びたいという学生の熱意によって長く続いたのですが、医学生がこの種の話に飢えていたのだと思います。10年前の退職記念講演会の後で、この「あとほーむアーベント」に参加していた医学生を主体にして、その他の学生も加わって書かれた色紙が２枚届きました。私にとっては、懐かしい思い出であり、今では貴重な財産です。この色紙を記録に留めておきたいという意味もあって、本冊子の最後に、掲載させていただきます。

人生には節目ともいえる時がいくつか訪れてくるものです。大学での学究生活を終えるにあたり、これまで自分がしてきた仕事を、『いのちのバトン』と名付けた本冊子に何とかまとめあげることができました。エピローグを書きながら、大きな節目を無事終えたことをいま感じています。肩の荷を下ろし、ホッとしています。と同時に、心置きなくこれからの新しいステージに移っていけると感じて、爽快な気分になっています。これからの人生の旅路の中の新しいステージでは、今までにできなかったことで、初めてのことにいくつかチャレンジしてみたいと思っています。そして、限りある人生の持ち時間をじっくりと味わいながら過ごしていきたいと思っています。

いろいろとありがとうございました。

2016年春

大分大学名誉教授

中野　重行